本学会と交流のある海外学会の
定期研究集会派遣報告

第10回タイ医学物理学会
(Thai Medical Physicist Society: TMPS)

開催場所：バンコク，タイ
開催期間：2018年1月17〜19日

10th Thai Medical Physicist Society に参加して

派遣員　松本賢治　近畿大学医学部附属病院

今回，私は日本放射線技術学会(JSRT)の海外派遣制度により助成を受け，2018年1月17〜19日にタイのバンコクで開催された第10回タイ医学物理学会(TMPS)に参加し，発表を行った．

タイの学会に参加するのは今回で2回目の経験であり，スムーズな学会参加ができた．10th TMPSは参加者約180名で，日本人の参加者は30名と来泰していた外国人の中で最も多い参加者数であった．

私の発表内容は，放射線治療における低吸収素材を用いた皮膚線量の低減であった．英語の発表は滞りなく行うことができた．バンコクでは，がんの患者は非常に増加しているにもかかわらず，放射線治療が可能な施設は相対的に少ないそうであるが，放射線治療のセッションは最も大きな会場で行われており，放射線治療領域の研究および発表はタイ医学物理学会においても積極的に行われていた(Photo)．

今回参加した学会で発表されている内容の多くは，JSRTで行われているような内容であった．Invited lectureで，マレーシア大学のDr. Kwanが講演された“Educating the next generation of medical physicist”が非常に興味深い内容であり，後の医学物理士の育成に関して，教育システムの再考が必要であるという内容であった．海外の医学物理士は，日本のように診療放射線技師が認定を取得するというシステムではない国が多いため，医療チームの中で効果的にコラボレートすることができる医学物理士の育成は，非常に教育システムに影響を受ける．また，タイでは診断領域や核医学領域での医学物理士の必要性も重要視されており，ここは日本がもう少し意識しなければならない点であると感じた．

Photo　Radiotherapy session 会場

タイの方々は英語が非常に堪能であり，自分も英語スキルを向上させなければと思うきっかけになった．自費出張で海外発表する場合，やはり10万円以上の支出を見込まなければならない．今回の派遣会員制度では，5万円の助成を受けることができたため，非常に有意義な制度である．日本人がアジアの学会参加で英語力を磨くためには非常に効果的であると感じた．

今後も会員のために，このような海外派遣助成を積極的に行っていただき，JSRTの国際化に貢献できる会員の成長をバックアップしていただきたい．

最後に，TMPSの参加にあたり参加助成をいただき，日本放射線技術学会関係者各位に厚く御礼申し上げます．

TMPS 2018への参加報告―タイの医学物理の現状―

派遣員　俵　紀行　日本医療大学保健医療学部診療放射線学科

2018年1月17日から19日までバンコクのThe Montien Hotelにて開催されたThai Medical Physicist Society（TMPS）第10回大会に参加し，演題発表を行ってきたので報告する．

10年前，大会長であるAnchali Krisanachinda先生主導のもと，Chulalongokorn Universityの一教室にて始まったTMPSは，規模を拡大し第10回大会を開催できるほどまで進化してきた．東南アジア地域は，放射線治療に関する需要および関心が最も高く，タイでも例外ではない．そのため，TMPS第10回大会は，そのカテゴリを“Radiation Therapy（RT）”および“Imaging & NM”の2種類にて進行された．

X線CTなどのImaging，核医学検査（NM）に関しては，被ばく線量の適正化を主として関心が高い．これはタイ国内で急速に発展する医用画像検査における需要と関心が，導入の速さと同時進行により高まっているからと私は考えている．

MRIを研究テーマとする私はMRIに関する演題を“Optimum setting of echo times for accurate transverse relaxation time（T_2）measurement”というタイトルにて発表したが，私が発表したセッションである2日目の“Proffered Paper in Imaging & Nuclear Medicine”のChairpersonも大会長から依頼されていたこともあり，ChairpersonとPresenterとの一人二役での進行にてセッションに臨んだ．そのとき協力してもらったCo-Chairがタイで仕事を行う際の同僚でもあるChulalongkorn UniversityのKitiwat Khamwan先生である．彼は医学部放射線科核医学部門に所属するRTのライセンスを保持した有能な教育研究者である．

MRIに関していえば，タイでは装置導入は急速に進んでいるが，タイ以外の東南アジアではまだその速度は速くない．そういった事情を背景に，タイを含めた東南アジア全体で抱える問題点の一つとして，検査に従事する者は増加しているがMRIを専門とする医学物理関係の専門職は非常に少ないという現状がある．しかしながら，MR Physics担当による大学院生への教育，またMRIに関する研究指導の担当を通じてChulalongkorn Universityでの研究教育にも関わる身からの視点としては，潜在的なMRIの需要（特に原理に関する理解や研究への活用）は非常に高い可能性を感じている．そのため，第10回大会では，MRIに関する演題は2題のみであったが，TMPSの開催実績が増えるにつれて演題数も増加するであろうと私は予想している．

Photo　Chairmanへの感謝の気持ちを込めた記念品を大会長から授与される筆者

最後に，本国際会議への参加に際してご支援を頂いた，公益社団法人日本放射線技術学会・国際戦略委員会への感謝の意を示すことで，本報告を終わりとする．

「海外での学会発表」という大きな挑戦

派遣員　嶋川友里絵　東千葉メディカルセンター

はじめに

平成30年1月17日から19日までの3日間，タイのバンコクで，タイ医学物理学会（Thai Medical Physicist Society: TMPS）第10回学術大会が開催された．このたび日本放射線技術学会の「本学会と交流のある海外学会の研究集会派遣会員」として参加させていただき口述発表を行ったので，ここに報告する．

1．TMPSの概要について

今回のTMPSは，タイからの参加者が多くを占め，

Photo　発表後，Discussion の様子

日本，ミャンマーなど海外からの参加者が全体の 2 割程度という印象であり，すべての進行が英語で行われた．発表会場は 2 部屋，その他に PC センター，機器展示ブースが設けられていた．また，ランチやコーヒーブレイクなど，参加者同士でコミュニケーションをとる場が多くあった．

2．初・海外での学会発表

私は，国内の学会では数回の研究発表経験があったが，英語での発表は一度きりであり，海外での学会発表は初めて，それどころか海外渡航すら初体験であった．発表は，“Evaluation of Backscatter Causing Artifacts When Using Flat Panel Detector”という演題名で行った．本研究の目的は，FPD 使用時に後方散乱線が原因となり発生した障害陰影について，その発生傾向と対策を提示することである．

発表自体は，練習を重ねたこともありスムーズにできたように思う．しかし質疑応答では，質問内容を聞きとれなかったり，伝えたいことをうまく表現できなかったりと，もどかしさを感じたとともに，悔しい思いをした．この経験を忘れることなく，今後は研究を続けることはもちろん，英語の勉強にも一層力を入れていこうと思っている．そして近いうちに必ず，また海外での学会発表に挑戦することを決意した．

謝　辞

最後に，TMPS の参加にあたり「本学会と交流のある海外学会の研究集会派遣会員」として助成をいただきました小倉明夫代表理事ならびに日本放射線技術学会関係者各位に厚く御礼申し上げます．また，本研究を遂行するにあたり多大なるご指導とご鞭撻を賜りました，シカゴ大学名誉教授の土井邦雄先生，海外での学会発表のきっかけをいただきました，群馬パース大学の加藤英樹先生，「研究発表トレーニングキャンプ～地方から世界へ～」の関係者各位に，心より感謝申し上げます．

TMPS 2018 に参加して

派遣員　日置一成　広島大学病院

はじめに

第 10 回タイ医学物理学会（Thai Medical Physicist Society: TMPS）が，2018 年 1 月 17 日から 19 日にかけて，タイのバンコクで開催された．今回，私は日本放射線技術学会より助成を受け，参加・研究発表する機会を頂いたので報告を行う．

研究発表の内容

発表内容は画像誘導放射線治療における kV-CBCT に関する研究であった．現在，高精度放射線治療では，正確な位置合わせのため，kV-CBCT を用いた位置照合が利用されている．しかし，kV-CBCT の頻繁な利用は正常組織への被ばく線量増加が懸念され，患者固有の画質を考慮した被ばく線量の最適化が求められる．そこで本研究では，治療計画用 CT 画像を用いて kV-CBCT の投影像をシミュレーションすることで，実際の患者での kV-CBCT の撮像画像を作成するシステムを開発し，そのシステムの妥当性に関する報告を行った．

学会参加にあたって

今大会は，“Innovation in Medical Radiation Physics: Thailand 4.0”をテーマとし，Pre-Congress Program として 9 題，Congress Program として 13 題の Invited Lectures，6 題の Vendor Talk，36 題の研究発表が行われた．ミャンマーの学会とも交流があり，発表のみならず日常会話もほぼすべて英語で行われ，学会員の英語力の高さに感銘を受けた．また，ランチが主催者により用意されており，別室のテーブルでタイ料理を楽しみつつ，親交を深めることができたり，主

Photo　Anchali Krisanachinda 先生とチュラロンコン大学にて．筆者は右から 2 番目

催者による合同懇親会ではタイの伝統的なダンスを披露してくれたりと至る所に参加者を歓迎する気配りを感じ，国際学会に不慣れな参加者でも参加しやすいように感じた．更に，今回特別に，大会長である Anchali Krisanachinda 先生のご厚意により，チュラロンコン大学病院を見学させて頂き，実際の臨床現場を直接目にすることができた．大変貴重な経験であり，経験したことを今後の臨床や研究に活かしたいと感じるとともに，今後も積極的に学会にも参加し，更に知見を広めていきたいと感じた．

謝　辞

最後に，TMPS 2018 に参加する機会を与えて頂きました日本放射線技術学会の小倉明夫代表理事をはじめ関係者の皆様に深く御礼申し上げます．また，学会参加に快諾頂いた広島大学病院のスタッフ一同に厚くお礼申し上げます．